

株式会社小松木工

代表者 小松 俊晴

住 所 秋田県横手市大雄字田村66-5

連絡先 TEL 0182-52-2149

FAX 0182-52-2107

U R L <https://komatumoko.co.jp>

資 本 金 300万円

設立年月 昭和44年4月

従 業 員 36人



厚みある縁貼り材の貼り付けが可能な自動縁貼り機の導入により、生産能力を増強し人材育成時間を捻出

当社は1969年創業の木製家具・建具製造業者です。東日本全域の学校関係、医療機関、介護施設等をメインに木製家具を供給しています。大量生産の安価な家具が市場規模を広げるなか、経験豊かな技術者が研鑽を積み、機械任せにせず、最終段階では手作業による確認調整を行っています。技術的には特に組子技法に卓越しており、代表取締役会長（小松俊悦氏）が2015年「現代の名工」に選出されています。今回は木製家具製造業共通の課題である「生産能力の増強」「人材育成時間の捻出」に向け、補助事業を活用させていただきました。

Question

Q 御社のモットーを教えてください。

A 「常にお客様の立場になって考える」です。最新の設備導入と従業員の育成を継続することで、製品品質の向上を追求しています。



導入したエッジバンディングマシン(木工用縁貼り機)

代表取締役
小松 俊晴さん

本事業への取り組みの経緯

人口減少等を背景として、木製家具製造業は深刻な人手不足の状況にあります。担い手がいらないことで廃業を余儀なくされるケースが増加しているため、業界全体の生産能力が不足し、川下企業から当社に対して生産能力増強などを迫られるケースが増えていました。

生産能力増強に向けて高度技能者の作業を分析したところ、当社が所有していたエッジバンディングマシン(木工用縁貼り機)で対応できる厚みは3mmが限度で、それ以上の厚みのエッジテープを貼りあわせる場合、高度技能者が手作業を行っている状況にありました。



工場内の作業の様子

実施した内容(取り組みの詳細)

海外製品を含めた自動縁貼り機を調査したところ、最大12mmの板厚まで貼り付け可能な機種が存在することが分かりました。そこで、最新のエッジバンディングマシンを導入し、縁貼り工程の自動化を図るとともに、高度技能者が従事していた工程を一般作業者でも対応出来るよう手順化することを検討しました。

接着不良対策として、接着面の断面仕上げ研磨、清掃、接着剤塗布を前処理として自動で行う機種を選定しました。また、接着強度を上げるため最適な作業手順を確立するとともに、一般作業者でも品質のバラツキが発生しないよう、複数人に操作指導を実施してもらいました。



樹脂のエッジテープを貼り合わせた製品例



組子技法による製品の試作

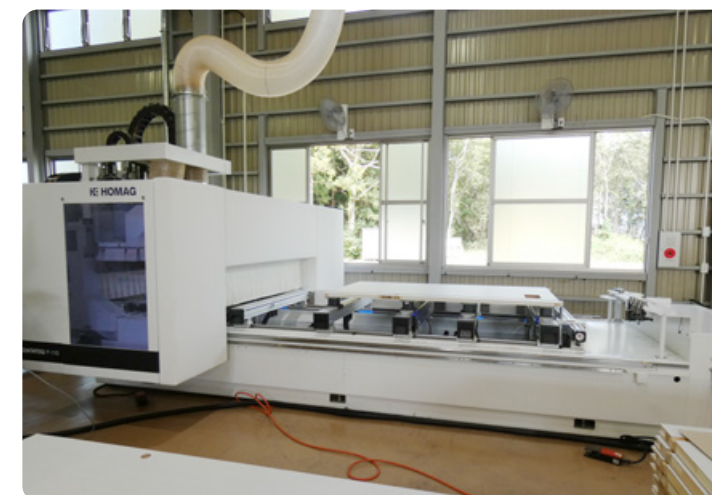
取り組みの成果・波及効果

これまで高度技能者が5分程掛かっていた工程が、一般作業者でも20秒程で作業出来るようになりました。ここ数年、ホテルや介護施設等でも挽板の縁貼り材を貼り付けした製品を納品する機会が増えています。天然木の手触りから高級感が得られ、縁貼り後に丸みを付けるなどの加工が可能のため、厚みのある挽板を縁貼り材として貼り付けできる本設備が非常に活躍しています。

縁貼りの自動化で生まれた時間を人材教育に充てることも出来ました。新規採用にも力を入れており、平成31年、令和元年、令和2年に各2名ずつ継続的に採用しています。



大型部材の切断が可能な横型パネルソー(最大幅4,500mm対応)



今年導入した3D-NC木工用ルーター

今後の展望・活動予定

当社では従業員教育に特に力を入れており、入社間もない若年者には職人の一歩として、会長が刃物の取り方を一定期間割いて直接指導しています。また、入社後2～3年が経過すると技能士検定を受検させており、二級は新入社員以外全員が保有、一級でも7～8割の社員が資格保有しています。こうした資格を受験するための費用は全て会社負担としています。

今年度3D-NC木工用ルーターを導入しました。本事業で導入した縁貼り機を含め、機械化で対応可能な作業と高度技能者の手作業が必要な作業をバランスよく融合し、品質向上に努めたいと考えます。



3D-NC木工用ルーターでカットした木工品の例